

あすろ通信☆三

VOL.54
2022.3



岡山アストロクラブ会報

☆ c o n t e n t s ☆

*アストロ電子工作

*連載小説 笑って再考ギリシャ神話

*昔日の一葉

hawk

オーモリ

T#

よみもの

初歩の アストロ電子工作

第 21 回

1. はじめに

初歩のアストロ電子工作 第 21 回は、「電子ファインダー」の続きです。

前は、「Raspberry Pi マイコン」と「HQ カメラ」を、ケースに組み込みました。

今回はいよいよ、カメラの撮影テストを行しながら、電子ファインダーをどんなふうに組み立てたら良いかを考えていきます。



2. HQ カメラの長時間露出テスト

天体撮影では、星の光は非常に暗いので、「カメラのシャッターを長時間開ける“長時間露出”」を行わないと、星の光をまともに捉えることができません。

「電子ファインダー」を製作するには、まずはこの「HQ カメラモジュール」が「長時間露出」に対応できないといけないのですが、幸いこの点は購入前に確認しており、HQ カメラモジュールは、最長で 200 秒の長時間露出を行うことができます。

では 200 秒の長時間露出をかけることができるかというと、「電子ファインダー」は、

望遠鏡に載せて振り回すものなので、「長時間露出」とはとっても 200 秒では、「200 秒ごとのコマ送り映像」となってしまうので、実際にはせいぜい、数秒の露出になるでしょう。

露出時間を実際に何秒にするかはそのうちテストするとして、まずは、Raspberry Pi で、どうやれば長時間露出できるのかを試してみましょう。

Raspberry Pi で静止画を撮影するには、第 18 回の記事でやったように「LX terminal」を使って、撮影コマンド (raspistill コマンド) を打ち込んでいきます。

raspistill コマンドにはいくつかのオプションがあつて、シャッター速度とか、感度に対するオプションには以下のようなものがあるので、これを使って、実験をしていきます。

【raspistill のオプション（高感度撮影に関するもののみ）】

引数 設定内容

-ISO ISO を設定

-ss マイクロ秒単位でシャッタースピードを設定

-ag アナログゲイン設定（浮動小数点）

-dg デジタルゲイン設定（浮動小数点）

今回はまず、5 秒くらいのシャッター速度を設定して、テスト撮影してみます。5 秒なので、-SS オプションで指定する値は、5(s) × 1000000(s ⇒ μs への換算定数) = 5000000 となります。

Raspberry Pi を起動して、LX terminal で、以下のように打ち込みます。

```
>sudo raspistill -o test.jpg -ss 5000000
```



昼間にテストしたので、5秒も露出すると真っ白になるでしょうから、カメラレンズを手で覆って撮影してみました。

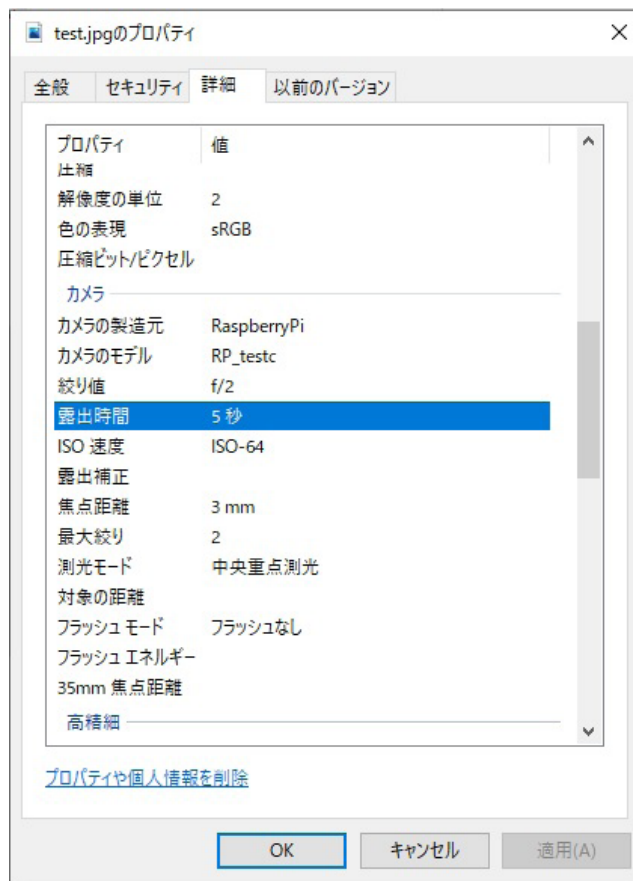
もっと実験に手こずるかと思いましたが、意外とあっさりと、上記のコマンドを打ち込むだけで撮影が完了しました。

では、撮影された画像データを見てみましょう。まず、画像データを見ると、以下のような感じになっています。真っ赤ですね。はて？

センサーのノイズ？とも考えたのですが、どうも違いますね。昼間に5秒間露出して、カメラレンズ部を手で覆ってるので、日光が掌を通過して、赤色だけが透過してるのでしょうか。



画像のほうはさておき、撮影されたデータの詳細を確認してみます。撮影されたJPEGファイルのプロパティから、Exif 情報という撮影情報をみると、確かに、シャッター速度が5秒になっているので、5秒で撮影されているようです。



カメラの製造元情報が「Raspberry Pi」というのが泣けます。あと、ISOは64となっているので、これが raspistill コマンドを使う時の、標準のISOということもわかります。

でもこうしてみると、測光モードも「中央重点測光」とか表示されてて、まるで、デジタル一眼レフなみの情報が揃っていることがわかります。raspistill というコマンドは、このように、撮影動作をすべて指定して、コマンドで打ち込んでやらないといけないのですが、機能的には、一眼デジカメやコンパクトデジカメと変わることなく、そこそこの撮影ができそう・・ということがわかります。(撮影するために、ソフトウェアを用意しないといけないのが難点ですが、逆にソフトウェアが用意できれば、いろんなことができそうです。)

3. 実写試験

では次に、いよいよ、野外に出て星空撮影をしてみます。

Raspberry Pi を外に持ち出すため、ベランダに Raspberry Pi を置いて、そこから室内のディスプレイ等にケーブルを引き込んで、テスト

ちょうど今の時期、オリオン座が南の方向に



見えますので、まずはオリオン座を撮影してみましょう。ISO を 1600 まで上げて、4 秒間露出で、カメラレンズは F 値 1.2 程度で撮影してみます。4 秒間なので、三脚固定の固定撮影で良いでしょう。(というか、まともに動く、撮影用赤道儀を持っていないので・・・)

LX-terminal で、以下のコマンドを打ち込みます。

```
> sudo raspistill -o test.jpg -ss 4000000 -ISO 1600
```

撮影した画像が以下になります。おお、オリオン座が写っている。記念すべき Raspberry Pi カメラでの、初星空撮影画像です。

撮影画像（生データ） ISO1600 露出 4



秒、カメラ F 値 1.2 前後、焦点距離 10mm 前後

でもなんか、4 秒露出ってこんなものでしょ

うか？ もうちょっと星が多く見えても良いと思うのですが、こんなものですかね？ 街中のベランダ撮影なので、こんなものなのかな？

オリオン大星雲 M42 の姿が見えない。M42 を見たかったのに、そもそも M42 は写ってるのでしょうか？

よくわからないのですが、とりあえずこの写真を画像処理したらどうなるのか、日頃から撮影・画像処理をよく実施されている、会報班の Sirius さんに、この画像を画像処理してもらいました。その結果がこれです。

むう。。 M42 が見えない。。 Sirius さん



いわく「星雲の像が、JPEG256 諧調のうち、3 くらいでうつすら存在しているが、完全に露出不足」だそうで、確かに 3/256 ではいくら強調しても無理ですね。

でも星自体は、生のデータに比べてたくさん見えるようになりました。何等級まで写ってるのでしょうか？ でも M42 が画像処理しても見えないとなると、なんか普通の 5cm ファインダーに比べても、感度が悪いような気も・・・何故でしょうか？

考えられる原因はいくつかあります。

【推定原因】

- そもそも、raspistill のコマンドの使い方等を間違っていて、思ったほどの高感度撮影ができていない可能性。
- ピントも合っていないので、星雲の微細な光が撮像されていない可能性。
- 当日は曇空だったし、家からのベランダ撮影なので、それなりに暗いところに行けば、もっ

と良くなるのかも

などなど、どこがおかしいのか、原因究明して改善しないといけませんね。

カメラの感度が、想定通りに正しい感度になっているのか、デジタル一眼の画像等と比較して、確認していくということもしないといけないのかも知れませんね。

4. 今後の予定

今回、なんとか、Raspberry Pi を使って、長時間露出することに成功しました。raspistill というコマンド自体は、長時間露出もあっさり動き、シャッタースピードももっと上げられそうな感じで、まだまだいろんなことが出来そうです。



この日はレーバースの河口までたどり着き、勇士たちは夜を迎えると森の中でオルフェウスの竖琴に合わせてアポロンの賛歌を歌いどんちゃん騒ぎを繰り広げるのでした。

翌日、出航した勇士たちはマリアンデューノイの国に到着し、盛大な歓迎を受けるのでした。さてここで異説が多々あるのですが、勇士達はアポロン様に会い生け贄を捧げます。本物の神様に会えば勇士達と言えども謙虚になるでしょうね。

その後アルゴナウタイー行はサンガリウス川を越え、リュコス（狼の意）が支配するリュキア国に入ります。マリアンデューノイ人の国ではあるようです。

が、ここで予言の力を持つイドモスとティーピュスが狩りの最中に猪に負けて他界してしまうのです。イドモスは悪疫のためとも言われていますが、何にせよ遂に犠牲者を出してしまったのでした。

一行は深く悲しみ、大きな塚を築き長い櫓を

しかし、実際の星空撮影のほうは、どうも感度が低いような画像が出てきてます。どこかで何かおかしい状態になっているような気がするのです、まだまだ改善が必要ですね。

ですが、とりあえず「Raspberry Pi + HQ カメラで長時間露出」というのは成功したみたいですし、今後はもうちょっと工夫しながら、いろいろ試してみたいと思います。

感度的には、5cm ファインダーと同等というのではあまり意味はないですから、せめて10～15cmクラスの望遠鏡と同等程度には仕上げたいですね。次回は「いろんな実験の失敗紀」となるかもしれませんが、引き続きいろいろ試してみたいと思いますので、また読んでみてもらえればと思います。

執筆：Hawk



墓標とし、以後船の舵はアンカイオスが取る事となりました。

これで一行は四十五人となってしまいました。まずミュシアの島でヘラクレスとお付き（意味深）のヒュラス、ついでに水夫一人、そしてイドモスとティーピュス。人数が一割減ると一人当たりの負担がかなり増しそうですね。よりによってヘラクレスが抜けてますし……。

しかし今更引き返すワケにもいきません。アマゾーンの国を超え、風屈のおりには戦神アレスの島に逗留しながら進む中、目指すコルキス国王アイエーテースに忌まれて追い出されたブリークソスの息子アルゴスやメラース達四人と出会い、彼等の案内で遂にカウカソス（コーカサス）山脈がそびえるパーシス河の河口に辿り着いたのです。ここまで来ればコルキスはもう目の前。

えっちらおっちら櫓を漕いで流れを遡り、夕方には目指すコルキスに上陸しました。取りあえずは手近な港に船を繋ぎ、岸で眠って夜明けを待つのでした。

さてこの頃、オリュンポスでは神々の会議が開かれていました。神々の女王たるヘラ様&アテナ様はイアソンをご贖にしておいでです。故にどうやってイアソンをフォローして金羊の裘をゲットさせるのか、色々と議論を白熱させていたのです。

最終的には愛と美の女神アフロディーテ様に頼んで、その息子エロース（ローマ神話ではクピド。英語読みでキューピッド）の魔法の矢を使うしかない。アイエーテースの娘で魔術に長けたメーディアをイアソンに恋させ、その魔術の力でなんとかさせようという結論に達したのでした。

早速両神はキュプロス島の神殿にいるアフロディーテ様を訪ねました。

丁度アフロディーテ様は乳白色の肩先に優雅な金髪をなびかせ、お化粧の最中でした。が、両神を出迎えその話を聞くと（なんやコレ、面倒くつつさいなあ……断つたろかいな……）と思ったものの、ヘラ様の熱心さに負け、息子のエロースを呼び寄せます。「ええか、アイエーテースの娘メーディアに黄金の矢を射かけるんや。ほんでイアソンに首ったけのゾッコンの夢中にさせたるんやで。ええな」と指示を出したのです。

エロースはまるで鬼軍曹の命令を受けた新兵のようにすっ飛んでいくのでした。

やがて夜明けを迎え、パーシスの河岸に眠っていたアルゴナウタイ一行も目を覚まし、朝食の用意をしていた時の事。イアソンが今日の計画について一同の同意を求めたのです。「なあ皆、聞いて欲しいんやけど。まずはまともにアイエーテース王に金羊の裘を要求しようと思うんや。ブリークソスの子息のアルゴスやメラース達四人を連れて。あの裘は今はアイエーテース王のもんやけど、元々ブリークソスのもんやったんやし！それにこっちもクソツタレとは言えペリアース王からの命令っちゅう事になるんやからな。初手から力尽くっちゅうワケにもいかんやろ。まずは交渉や！で、ついてはもう二人ほど一緒に来て欲しいんやけど」

この下りは単身乗り込んだという説もありますが、コルキスの王女カルキオペーは元ブリークソスの妻でアルゴス達の母親とのことです。から、心理作戦というかコネというか、その路線でもアルゴス達と共に行くのがいいでしょうね。

兎に角ヘラ様の加護の元、無事に王宮に辿り着き広間へと通されました。

そこにはアイエーテース王と王妃エイデュイ



シャルル・デ・フォセ〈コルキスへ到着したイアーソンとアルゴナウタイ〉

ア、王子のアブシュルトスが居並ぶ群臣を従えて座についていました。やがて王女のカルキオペーも妹メディアを連れてやってきました。カルキオペーは夫と共に失った息子達に再会し、喜びの涙を流すのでした……って、いやいや。王様と王妃が居て王女がいてその子供達が成人してやって来ていて……一体何歳なんでしょうね、この人達は。

アポドーロスによるとブリークソスは元々アイオロス王家の生まれ。不作から逃れる為にゼウスへの生け贄にされそうになったところを母ネペレーに救われ、その際にヘルメスから授かった金毛の羊に乗って空を飛びコルキスに到着。アイエーテース王の客人となり、王女カルキオペーを妻としました。そして金毛の羊を厄除けの神としてゼウスに捧げ、その毛皮をアイエーテース王に贈ったという事です。ややこしい人間関係ですね。

さて妹メディアの方ですが、彼女は女神ヘカテの巫女をしていました。更に魔術に長けた魔女。並の男では見向きもしませんが、このところ遠いギリシャ本国から四十五人の英雄がやって来たということでコルキスはその噂でもちきりです。更にイアソン達が王宮に乗り込んできて侍女達が騒ぎ伝える話にメディアと言えども気になって仕方がなく、神殿に行く前に来てみたというわけです。

さあここでエロースの出番です。姿を消してイアソンの脇に立ち、黄金の矢を弓につがえ、メディアの胸に狙いを定め……黄金の輝き一閃！もちろん人間には見えませんが。狙い過たず命中したのを見届けると、悪戯好きな子供の神様は人間には聞こえない笑い声をあ

げながら、キュプロス島で待つ母神の元へ羽ばたき帰って行きました。

それどころではないのが当のメディア。イアソンの凜々しい姿から目を逸らす事ができず、胸の高鳴りを押さえる事も叶わず、神の手による恋心に翻弄されるのでした。

それと正反対なのがアイエーテース王。引見した彼はまずブリークソスの子らの帰国をなじり、イアソンの要求についてはにべもなくはねつけました。まあ彼にしてみれば唐突過ぎる話でしょうね。

イアソンも簡単に引き下がるわけにはいきません。神々の後裔である自分の素性と、神々の加護によってこの国にやってきた次第を語り、重ねて金羊の裘を要求しました……が、この人の家系を調べても神様の血は流れてなさそうなんです……かなり遠回りに流れてるんでしょうかね。言ったもん勝ちなのでしょうけど。とにかく相手が神様を味方につけているとなつては迂闊な事はできません。慎重に断るのが賢明です。

「おっしや分かった！けどな、あれはこの国にとって大事なもんや。せやから条件付きや。ワシの厩に軍神アレスの持ちもんやったでかい牛がおる。こいつは青銅の足で口からくびき火を噴く化け物や。こいつに軛をつけてアレスの聖地を耕すんや。で、そこへワシが渡す竜の歯を播くんや。そしたら武装した兵士が地面から湧いてくる。そいつらを全員討ち果たせ！それが出来たら金羊の裘をやるわ！」

さあ無理難題です。そんなとんでもない牛がいようとは。コイツはヘパイストスの贈り物とも言われ、しかも伝によっては二頭いたとも言われています。さらに竜の歯はかつてカドモス王が竜をSATSUGAIした時にアテナ様の言うとおりに播いたら武装した兵士が現れ、「スパルトイ(播かれたる者)」と呼んだという代物。アテナ様から貰ったと

も言われていますが。とにかくいきなりそんなことをやれと言われても……となるのが普通です。

しかしイアソンは「やる」以外の返事が出来ない境遇。

「おお、やったるわ！やったらええんやろ！そ



シャルル＝アンドレ・ヴァン・ロー
〈イアーソンとメーディア〉

んかわり、出来たら絶対に裘は貰うで！」「おっしや言うたな！絶対にやって貰うで！出来るもんならな！ダーツハハハ！」

困った事になりました。若気の至りというか勢いだけと言うか運命の悪戯と言うか、とにかく無理無茶無謀を承知の上で挑戦です。正直なところ勝ち目など欠片もありません。

これにはイアソンも頭を抱えてしまいました。アイエーテース王が自分の死を企んでいるのも明白です。ここまで来て王位の望みも空しく、化け物牛にSATSUGAIされて異国の土となり果てるのか……。

途方に暮れたまま広間を退出し、一行は王女カルキオペーとともに彼女の居間に入りました。メディアも自分の居間に戻ります。が、彼女の心を占めるのはあのイアソンだけ。彼の姿、立ち居振る舞い、声までも思い出すにつけ、これほどまでに頼もしく美しい青年がこの世にいうとは。

そんな彼が父王の無理難題で命の危機に瀕している事実。助けたいと思うものの、それは父である国王への反逆。思い人と父王との板挟みに陥ってしまい、ただイアソンの無事を女神ヘカテに祈るばかりでした。

王宮を出たイアソン一行は黙々と街を通り川岸へ出ました。するとアルゴスが閃いたのです。「おいイアソン！ワシ等の叔母のメディア。広間におったやろ。彼女は女神ヘカテ様の巫女で魔術の達人なんや。彼女の協力を要請したらどうや？なんならオカンのカルキオペーから頼ん

で貰うんも有りやで」
「それを早く言わんかい！巧く行ったら最高やんけ！」

ようやく見えた一縷の希望に心を弾ませ、まずは仲間達が待つ入り江に走るのでした。イアソンが王宮での一連の出来事を語り、アイエーテース王との約束を話すと一同は口々に彼の勇気を称えて激励しました。やっぱりこのノリですよね、この連中は。そして座が静まるとアルゴスが立ち上がり、先ほどイアソンに告げた彼の策を語り、皆の賛成が得られたならすぐにも実行しようと提案しました。

もちろん全員一致で賛成です。最短距離を突っ走る突撃野郎達ならではのノリです。

早速アルゴスは王宮に赴き、母カルキオペーからメディアに取りなしを頼んでみました。カルキオペーは息子達の為にとメディアに助力を頼むのですが、父王の怒りを恐れてか容易に承諾しません。そりやまあそうですね。いくら王女と言えども国王に叛けば死罪がこの時代の常識ですから。

父王への反逆の恐ろしさとイアソンへの恋しさでメディアの心は千々に乱れてただ泣くばかりでした。自室で一人になっても泣き続けるメディア。その様子を侍女から聞いたカルキオペーは妹の部屋を訪れて泣いているわけを尋ねました。

しかしメディアはそれに答えず、ただアルゴスの頼みを聞き入れて、明日の朝ヘカテの神殿に行って雄牛を鎮める薬を作るが、この事は誰にも言わないでくれと語ります。

息子の願いが叶えられたカルキオペーは大いに喜び、アルゴスに事の次第を伝えるのでした。さて、夜の闇が辺りを覆うと、船乗り達の夜の目印になる大熊座やオリオン座の三つ星がきらめきはじめ、犬の遠吠えもやんで街は静寂につつまれたとあります。時間と星の位置から考えると、舞台は四月前後といった感じですね。メディアは寝付かれず、雄牛の犠牲になるかもしれないイアソンの事ばかりが胸に浮かび涙を流すのでした。恋の矢の効果たるや凄まじいですね。薬草の手箱を取り出すと、憐れな娘はいつそ毒草を飲んで死のうかとすら思うのですが、さすがにそれはまずいとヘラ様が彼女の胸に死

への恐怖を呼び起こして止めます。
これが恋の病というやつですか……恐ろしい……。

とにかくイアソンに会う事だけを楽しみに、一睡もせず一夜を明かすのでした。

東の空が白み始めると、メディアは髪を整え、香料をつけて装いをこらし、薬草の手箱の中から「プロメテウスの草」と呼ばれる薬草を取り出しました。これを携え、深夜ヘカテ様に生け贄を捧げ、夜明けとともにこの薬草を川に浸しそこに浸かると、その体は魔力によって一日だけは剣にも火にも傷つかないものになるのです。

凄いですね。かなりのチート素材です。これをもってメディアは侍女を呼び、驢馬の引く馬車に乗ってヘカテ神殿へと向かいます。

一方でアルゴスは勇士達にメディアの援助を伝えており、イアソンは鳥占いの得意なモブソスとアルゴスと共にヘカテ神殿へと向かっていました。

神殿の近くには一本のポプラの木があり、梢には鳥が巣をかまえていました。三人が近づくと鳥たちは枝から枝へと飛び交いながら囀るのです。すると鳥の言葉を理解するモブソスは、ほくそ笑みながらイアソンに伝えます。「おい大将、神殿の近くに一人の乙女がおって、その娘こそが！アフロディーテ様が大将のために力を貸すように送られたらしいで！」

凄いですね。そこまで正確に分かるとは。鳥達もなんでそこまで知っているのでしょうか。「天空と地上を行き来する」からでしょうかね。

いよいよイアソン一行が神殿に辿り着くと、モブソスの言葉通り一人の麗しい乙女が佇んでいるではありませんか。もう間違いありません。「あんたがメディア王女……？」「……」

恋の恥じらいか無言のメディア。するとイアソンが熱心に助力を懇願し、彼女への賛辞を送ります。まあ命が懸かってますし、なによりも神様が用意してくれたガチで運命の出会いです。

やがてメディアは口元に微かな笑みを浮かべ、スツと例の薬草を手渡しました。そして今度こそ晴れ晴れとした気持ちで薬の使い方を教えるのです。また、竜の歯から現れるスパルト

イ達には、かつてカドモンがしたように、彼等が散会する前に遠くから大きな石を投げつけ、連中が「誰が投げつけて来よったんや！」と揉めているうちに倒してしまうように教えました。

それからメディアとイアソンは楽しい一時を過ごし、それぞれ帰路につきました。アポロドーロスの伝では、メディアはアイエーテース王と海の神オケアノスの娘エイデュイアの間に生まれたそうで、この時自分を妻としてギリシャ本国に連れて帰るとの約束をしたそうです。

イアソンは船に戻って仲間達に事の次第を伝え、もらった薬草を見せるのです。

明るく朝、テラモーンとアイタリデースはアイエーテース王の宮殿を訪ね、例の竜の歯を受け取ってきました。アイエーテース王も「出来るワケあらへんわ！」と高をくくっていましたので気前よく彼等に渡したのです。

ちなみにテラモーンは後にあのアキレウスの父となるペーレウスの兄弟ですが、アイタリデースはアポロドーロスの伝には登場しない、ただの使者。出番があって良かったですね。その夜、イアソンは皆が寝床につき、空に大熊座が輝きだすと、葡萄酒と牝羊を携えて荒野のただなかに流れる川の畔に一人で行きました。まずメディアに教えられたように川の水を浴びて身を清め、ヒュプシピュレーに送られたマントを体に巻き付けて、差し渡し六十センチほどの穴を掘ります。そして太い焚き木を用意すると、生け贄の喉をかき切り、屍を焚き木の上に横たえて火をつけました。頃合いを見て火に葡萄酒を注ぎ、声を低めて女神ヘカテを呼びました。

すると闇の中から恐ろしい女神が現れ、生け贄に近づきます。周囲には冥府の犬たちが群れをなし、悍ましい声で吠え回り、イアソンが心底ビビってしまいます。まあ無理ありませんね。もしかしたらこの辺りの説明は無かったのかもしれませんが。

とにかく必死に夜明けまで辛抱し、全てが終わると例の薬草を川に浸し、そこに浸かると、彼の体は魔力によって一日だけ無敵モードになったのでした。アポロドーロスによると盾と槍と体に薬草を塗ったという展開です。

明るく朝、アイエーテース王は軍神アレス様

から贈られた鎧に身を固め、黄金の兜をを戴き、槍と盾を携えてアレスの聖地に臨みます。不測の事態に備えたのでしょうか、完全武装ですね。アルゴの勇士達も思い思いの武器を装備してイアソンと共にやって来ました。イアソンはというと、腰には剣、手には槍を持って威風堂々たる落ち着きを示しています。対策済みの余裕なのは内緒です。

竜の歯は兜の中に収めて準備万端。青銅の犁^{すき}を傍らにして立つ姿はアレスのように勇ましく、アポロンのように颯爽たるものだったと伝えられています。イケメンぶりが増してますね。いよいよアレスの雄牛が放たれます。青銅の足で土を蹴立てて突進！焰の息を吐き散らしながら突っ込んで来ました！居並ぶアルゴの勇士達も怯む中、イアソンは大地を踏みしめて真正面から受け止めたではありませんか。

雄牛の焰の息を浴びてもなおたじろぐ事無く、両手で雄牛の角を掴んで押さえ込みます。アイエーテース王と率いる軍勢、アルゴの勇士達も驚きの声をあげました。アイエーテース王達はイアソンがメディアの協力を得ていた事を知りませんし、勇士達は雄牛の突撃を見た瞬間に「あ、コレはアカンヤツや……」と諦めていたのですから。

魔力を受けたイアソンは雄牛の攻撃を物とせず、青銅の犁^{すき}を取り付けて聖地を耕し始めました。居並ぶ人々の驚きを尻目にこれは気持ちいいでしょうね。

耕し終わるとイアソンは雄牛に軛^{くびき}をかけて青銅の柱に繋ぎ、尚も暴れ続ける猛牛を投げ飛ばして更に横つ腹を蹴飛ばして大人しくさせました。さすがにやり過ぎにも見えますがそこは神様から授かった牛。そのくらいしないと大人しくならないのでしょう。

ようやく兜から竜の歯を取り出し播いていきます。この頃にはもう、太陽が中天を過ぎていたといいます。長丁場ですね。

さあスパルトイ達がわらわらと湧き出してきました。盾と二又の槍を引っさげた完全武装の兵士達です。イアソンはすかさずメディアの教えた通りに、大石を彼等の真ん中めがけて投げ、自分は盾の後ろに身を隠します。

すると話違わず互いに非難し合い同士討ちを始めたではありませんか。美味しい展開ですね。

十分に敵の数が減ったところでイアソンは飛びかかり、縦横に剣を振り残った敵を討ち果たしました。こうして土から生まれたスパルタイ達はまた土へと還ったのです。

大勝利をあげたイアソンとは対照的に大恥をかいてしまったアイエーテース王は不機嫌なままで王宮へと帰り、思案を巡らせます。どう考えても人間に御せる猛牛ではありませんし、スパルタイ対策に至っては間違いなく知っていたとしか思えません。

となると疑わしいのはメディア。そんな事を知っているのは魔女である彼女くらいしかいませんから。

何よりも金羊の裘を与えるつもりなど端っからありはしません。こうなったら全軍をあげて実力行使です。アルゴ号も焼き払い、一人残らずSATSUGAIしようと決心するのです。ピンチですアルゴナウタイ一行。しかしこの時



第 22 回 乗鞍岳畳平の星空

20 回をとうに過ぎネタ枯れのこの連載、今回は乗鞍岳畳平で撮った写真です。沈むさそり座を撮ったもので、当時活動していたコロナ観測所の明かりも写っています。

星を見るようになって暗いところで星を見たいと思うのはもはや本能とも言えますが、自分もその例に漏れず郊外の祖父母宅から始まり、大芦高原、妙高高原、日ノ岬、潮岬などに行きました。その中で一番綺麗に見えたのは妙高高原笹ヶ峰でしたが、帰岡してからはほぼ大芦高原にて見ておりました。そんな中 2001 年の夏に畳平駐車場に行けなくなるというのを知って一度入ってみようと思い立ち、片道 10 時間かけて行きました。到着すると寒いし通り雨が降る天候不順だし失敗かと思ったのですが、晴れ間が出たときには星座がわからない位の星ばしの輝きと星図通りにみえる真っ白な天の川を飽きずに見とれておりました。あと、来ている人はほとんど東日本の人で、はるばる岡山から行った自分は珍しがられました。

メディアは先回りして、お気に入りの服を着込み魔法の薬草が入った小箱を片手にパースの川岸にやって来ました。有能ですね、メディア。アルゴ号の篝火^{かがりび}を見つけて彼等と呼ぶと、イアソンが声を聞き分けて船を岸に寄せ、メディアを乗船させました。そしてメディアは事情を話して一同を促しました。「父王が来る前に森へ行って金羊の裘を手に入れるんや！ドラゴンがウチが眠らせるさかいに！ただ、その代わり……国も父母も何もかも捨てるしかあらへんウチを、絶対に見捨てんといて？」「おっしや分かった！ワシが王位を取り戻したら王妃にしたるで！」

とまたもや迂闊な約束をしてしまうのでした。前にもレムノス島で同じ約束をしてるんですが……やれやれ。

(つづく)



2001/8 MamiyaM645 1000S 80mmF2.8 フジクローム 400 露出 10 分位？

この後、大茅、大川嶺や南阿波にもいきましたが、乗鞍岳までの空は見えていません。もう一度あれくらいの空を見てみたいですが、南半球に行かないと無理でしょうね。執筆：T#

発行元：岡山アストロクラブ

発行日：令和 4 年 3 月 31 日

次号発行予定：2022 年 6 月

ホームページアドレス

<https://oac.d2.r-cms.jp/>

編集後記

またまた発行が遅れすみません。ただでさえコ

ロナで難儀しているところにさらに世情が不安定になってきております。本当に早く安心して星が見えるようになってほしいです。

